

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援西宮たんぼぼ つぼみ		
○保護者評価実施期間	2025年10月28日		～ 2025年11月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	年月日		～ 年月日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月31日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者とのコミュニケーションをこまやかにしている	入所時、支援計画懇談時等に丁寧にご説明を行っている。送迎時に顔を合わせてご様子を共有できるため、こどもの成長をこまやかに共有できる。	日々のお伝えに加え、必要に応じて個別でのご相談もしていただけることの周知を行う。保護者会等で、たんぼぼの様子を知っていただいたり、保護者同士が交流できる場を設定する。
2	食を中心とした実体験	毎日食育を行うことで、こどもたちが繰り返しの体験ができる。植物の栽培、お買い物体験も体験できる。砂場、土、水などにふれることのできる環境があり。木のぬくもりにつまれた温かい空間がある。	管理栄養士との連携をさらに深め、こどもたちの実体験がより豊かに、生活に即したものとなるよう工夫を重ねる。また食以外の場面でも、様々な実体験ができるよう、より環境の整えや活動プログラムの内容を考えていく。
3	職員間の連携	毎日のふりかえり、ラインワークスでの共有等で、日々の課題、改善点、療育の目的等がチーム全体で共有できている。	長時間療育の隙間をぬってふりかえりを行っているため全員がふりかえりに参加できないことを意識し、どの職員も意見を言える場があるよう、体制を工夫していく。ラインワークスの適切な使用方法の検討。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	療育プログラム、一日の流れ等の確立	今年度に大きくプログラム内容、療育時間の見直しを行い、都度軌道修正を行いながら基盤固めを行ってきた。確立までもう1歩。	今年度過ごす中で生じた課題や改善点を洗い出し、それを次年度に生かすことで、食を中心としたプログラムのさらなる充実、長時間保育児の過ごし方、療育時間の見直し、1日の流れの見直し等を行う。
2	防災マニュアルや緊急時の対応方法等の保護者への周知	マニュアルを保護者に周知できていなかった。訓練をした際、保護者に発信が十分行えていなかった。	訓練後の写真を掲載し、保護者への周知を行う。マニュアルを整備し、保護者に閲覧できる方法を考える。
3	他施設のこどもたちとの交流	小規模保育施設、放課後等デイサービスが隣接し、みんなのいえでが地域の方とかがかれる環境にありながら、有効活用できなかった。	放課後等デイサービスのこどもたちとの交流を計画、実施する。公園、みんなのいえ等での地域の方との交流を大切にす。保護者へもお伝えする。